

整備事業

I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(愛媛県 平成28年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
				計画時	1年後	2年後	3年後	目標値	達成率				計画時	1年後	2年後	3年後	目標値	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他					
				(平成24年)	(平成26年)	(平成27年)	(平成28年)	(平成28年)					(平成24年)	(平成26年)	(平成27年)	(平成28年)	(平成28年)													
大洲市	愛媛たいき農業協同組合	果樹(かんきつ類)	当該品目の全出荷量に占める振興品種の割合を9.2ポイント増加	85.1%	91.2%	86.4%	90.4%	94.3%	57.6%	全出荷量に占める振興品種の割合が5.3ポイント増加した。	果樹(かんきつ類)	温州みかんの全出荷量に占める契約取引の割合を15.0ポイント増加	0%	0%	34.8%	40.0%	15.0%	266.7%	温州みかんの全出荷量に占める契約取引の割合が40.0ポイント増加した。	集出荷貯蔵施設(柑橘) 品質評価機器一式(17.0t/日、4条、計画処理量930t、品質評価(糖度、酸度、腐敗、生傷)) 自動秤量機3台	105,840,000	49,000,000	0	9,800,000	47,040,000	26.10.20	施設整備による選果の高度化が図られ、市場評価を高めることができ、契約取引の増加につながった。 しかしながら、振興品種の割合は、全出荷量が極端な長雨、干ばつ、鳥獣害の発生により伸びず、さらに既存品種において高値取引が続いたことから、改植が先送りにされていることによる収量性の低下、未成木の増加の理由により57.6%にとどまった。 今後は、天候によって品質等が左右されにくいマルチ栽培の推進や広域での鳥獣害対策、計画的な改植や補植改植による未収益期間の解消を図る。 また、契約取引にかかる全出荷量についても目標に達していないことから、同様に対応を図る。	契約取引の増加は、品質評価機の高度化により選果精度が向上し、産地評価が向上した事による。 一方、振興品種の増加は、極端な天候や鳥獣害の発生による減収、さらには改植の先送り等の要因で目標に達していない。 今後、振興品種への改植を進めるとともに、すでに転換しているものは結果樹齢に達していくことから今後出荷量は増加する予定である。引き続き目標達成に向け指導を行う。		

西予市	西宇和農業協同組合	果樹（かんきつ類）	当該品目の全栽培面積に占める振興品種の割合を10.0ポイント増加	(平成24年) 64.6% (振興品種栽培面積184.1ha/全面積284.8ha)	(平成26年) 75.4% (振興品種栽培面積225.2ha/全面積298.7ha)	(平成27年) 76.2% (振興品種栽培面積223.2ha/全面積293.0ha)	(平成28年) 76.2% (振興品種栽培面積222.0ha/全面積291.3ha)	(平成28年) 74.6% (振興品種栽培面積190.5ha/全面積255.1ha)	116.0%	当該品目の全栽培面積に占める振興品種の割合が11.6ポイント増加した。	果樹（かんきつ類）	温州みかんの全出荷量に占める契約取引の割合を15.7ポイント増加	(平成24年) 29.4% (契約取引出荷量516t/全出荷量1757t)	(平成26年) 33.9% (契約取引出荷量419.0t/全出荷量1237t)	(平成27年) 29.7% (契約取引出荷量296t/全出荷量998t)	(平成28年) 43.3% (契約取引出荷量557t/全出荷量1285t)	(平成28年) 45.1% (契約取引出荷量790t/全出荷量1750t)	88.5%	温州みかんの全出荷量に占める契約取引の割合が13.9ポイント増加した。	集出荷貯蔵施設（柑橘） 品質評価機器一式（59.5t/日、8条、計画処理量3,050t、品質評価（糖度、酸度、腐敗、生傷））	209,088,000	96,800,000	0	19,360,000	92,928,000	H26.10.28	施設機能の向上により腐敗果の混入が減少した。 振興品種の割合は、不良系統からの更新が図られ、園地の若返り・産地のブランド化を図ることができた。 しかしながら、契約取引の割合は品質・内容を市場出荷以上に重視されるため、また1ヶ月近く続く長雨や干ばつなど極端な気象条件による品質のばらつきが発生し、増加に至らなかった。 今後、品質の向上に向け、気象に左右されにくいマルチ栽培等品質向上対策の推進を行い、契約数量を確保する。	振興品種の栽培面積増加については、老木園・不良系統を中心に品種転換が進んでいる。 温州みかんの契約出荷量は、老木の増加による収量性の低下、1ヶ月以上続く長雨や干ばつなど極端な気象的要因から消費者ニーズに比べられるような高品質果実の量が少なく、目標達成できていない。 温州みかんについては、今後、改植や気象に左右されない栽培技術の励行等による品質向上を図り、契約取引量を確保できるように指導していく。
伊方町	西宇和農業協同組合	果樹（かんきつ類）	当該品目の全栽培面積に占める振興品種の割合を12.2ポイント増加	(平成24年) 72.1% (振興品種栽培面積223.3ha/全面積309.9ha)	(平成26年) 74.5% (振興品種栽培面積221.1ha/全面積296.9ha)	(平成27年) 76.0% (振興品種栽培面積217.6ha/全面積286.4ha)	(平成28年) 77.5% (振興品種栽培面積209.2ha/全面積270.1ha)	(平成28年) 84.3% (振興品種栽培面積226ha/全面積268ha)	44.3%	当該品目の全栽培面積に占める振興品種の割合が5.4ポイント増加した。	果樹（かんきつ類）	清見・不知火の全出荷量に占める契約取引の割合を15.1ポイント増加	(平成24年) 19.8% (契約取引出荷量541t/全出荷量2724t)	(平成26年) 19.6% (契約取引出荷量529t/全出荷量2698t)	(平成27年) 42.0% (契約取引出荷量708t/全出荷量1685t)	(平成28年) 32.6% (契約取引出荷量738t/全出荷量2264t)	(平成28年) 34.9% (契約取引出荷量1177t/全出荷量3370t)	84.8%	清見・不知火の全出荷量に占める契約取引の割合が12.8ポイント増加した。	集出荷貯蔵施設（柑橘） 品質評価機器一式（62.0t/日、計画処理量4,100t、品質評価（糖度、酸度、腐敗、生傷））	166,320,000	77,000,000	0	30,800,000	58,520,000	H26.12.1	施設機能の向上による腐敗果の混入の減少が図られ、産地ブランド化を推進することで契約取引は増加している。 しかしながら、振興品種の割合は、主となる品種の不知火・清見は果皮障害や隔年結果により収量が安定しないことから更新が遅れており44.3%にとどまった。 今後、不知火・清見について、果樹の防寒・防水対策、肥培管理・剪定・摘果等の栽培技術の改善を行う。 また、不知火・清見の契約取引における契約出荷量及び全出荷量は、上記の理由で計画を下回り、さらに老木の増加による収量の低下等により、目標値に達していないため、引き続き改植を実施する。	契約取引量の増加は、選果精度と貯蔵技術の向上により出荷時期の延長が可能になったことによる。 振興品種の未達成については、不知火の障害果発生、清見の隔年結果問題があり、振興品種以外の品種価格が顕著に推移していることから、計画的担い手確保や改植・更新が進んでいない。 振興品種への改植が進んでいないため、今後、個々の生産計画の練り直し、基本技術の励行、技術改良により振興品種への転換を図るよう指導する。 また、契約取引量及び全出荷量の未達成については、振興品種への改植の遅れや果皮障害、隔年結果等によるものである。 今後、防寒防水対策、肥培管理の改善等による樹勢回復、剪定・摘果の改善等を指導する。

愛媛県	—	全国農業協同組合連合会愛媛県本部	土地利用型作物（主要農作物種子）	水稲及び麦の種子合格率を100%	(平成25年) 100.0%	(平成26年) 98.0%	(平成27年) 99.9%	(平成28年) 100.0%	(平成28年) 100.0%	100.0%	水稲及び麦の種子合格率は100%を達成した。	土地利用型作物（主要農作物種子）	水稲及び麦の種子生産面積を15.1%増加	(平成25年) 8,232a	(平成26年) 8,988a	(平成27年) 9,061a	(平成28年) 8,797a	(平成28年) 9,475a	45.5%	水稲及び麦の種子生産面積は6.9%増加した。	乾燥調製施設 遠赤外線乾燥機 10t×4基 5t×2基 湿式集塵処理装置 1台 附帯設備一式	38,934,000	18,025,000	0	0	20,909,000	#27.3.24	種子合格率は100%を達成したが、生産（合格）種子数量及び種子生産面積は目標を達成できなかった。 水稲については、26年産米の米価下落による生産意欲の低下や飼料用米への作付転換により種子需要量が減ったこと、平成28年の9月以降の長雨・日照不足により採種は場の単収が減少したことから、生産（合格）種子数量及び種子生産面積の目標を達成できなかった。 麦については、事業計画時にマンネンボシからハルヒメボシへの作付転換及び作付拡大を推進し、麦の種子生産面積を増加させる予定であった。しかし、ハルヒメボシの原種ほ場においては黒穂病が発生し、採種ほ場においては黒穂病が発生したことから、ハルヒメボシ生産に対する不安感が大きくなり、生産（合格）種子数量及び種子生産面積が目標に到達しなかった。 今後、水稲については、現在県外産種子が県内需要の半分程度を占めているため、県内産種子の品質を向上し、県内産種子の需要を高めることで目標達成に努める。麦については、実需者とともに県内のはだか麦の生産振興を進めており、需要はあるため、はだか麦の作付拡大を推進すると同時に、種子消毒等を徹底し、種子の安定供給を図ることで目標達成に努める。	水稲及び麦種子の合格率は100%を達成し、特に麦種子の発芽勢に関しては今回の整備により向上した。 しかし、生産（合格）種子数量及び種子生産面積は目標未達となった。 今後は、水稲、麦ともにまず優良な種子生産ができるよう関係機関・団体との連携を密にし、県内産種子の品質向上及び県内産種子の需要を高めるとともに新規の生産者を確保する等種子生産面積の増加に取り組む。
				(合格種子数量 260.31t/生産 種子数量 260.31t)	(合格種子数量 295.20t/生産 種子数量 300.99t)	(合格種子数量 280.28t/生産 種子数量 280.49t)	(合格種子数量 235.82t/生産 種子数量 235.82t)	(合格種子数量 344.00t/生産 種子数量 344.00t)	[内訳] (水稲) 合格種子数量 191.46t/生産 種子数量 191.46t (麦) 合格種子数量 68.85t/生産 種子数量 68.85t	[内訳] (水稲) 合格種子数量 220.74t/生産 種子数量 220.74t (麦) 合格種子数量 74.46t/生産 種子数量 80.25t	[内訳] (水稲) 合格種子数量 231.44t/生産 種子数量 231.44t (麦) 合格種子数量 48.84t/生産 種子数量 49.05t	[内訳] (水稲) 合格種子数量 193.28t/生産 種子数量 193.28t (麦) 合格種子数量 42.54t/生産 種子数量 42.54t	[内訳] (水稲) 合格種子数量 239.00t/生産 種子数量 239.00t (麦) 合格種子数量 105.00t/生産 種子数量 105.00t	[内訳] 水稲 5,264a 麦 2,968a	[内訳] 水稲 5,827a 麦 3,161a	[内訳] 水稲 5,846a 麦 3,215a	[内訳] 水稲 5,786a 麦 3,011a	[内訳] 水稲 5,975a 麦 3,500a											

都道府県平均達成率	100.4%	総合所見	<p>本県実施事業の活用により、各地区の農業生産力の向上、産地競争力の強化を図ることができたが、目標達成には至らない項目も散見された。目標に達しなかった西予市と伊方町の契約販売量の増加については、9月以降の気象条件（降雨）や果皮障害等によるものであり、栽培技術の改善により向上するものと思われる。大洲市と伊方町の振興品種への更新も老木園を中心に、徐々にではあるがなされている。全農愛媛県本部の種子生産面積は関係機関が一体となり新規生産者を確保する等の方策で改善するものと思われる。</p> <p>以上のように、事業に即した取組みはできていると評価している。今後も、関係機関が連携して、各地区の成果目標達成に向け、問題の見直し・改善を行う。</p>
-----------	--------	------	---